

〔個人研究〕

国際的要素のみられる仏教絵本の諸作品

森 覚

1 問題の所在

戦後の日本では、諸外国の様々な物語が児童向けに再話され、それまでほとんど見られなかった海外の絵本作品が本格的に翻訳されるなどして、絵本文化の国際化が急速に進んだ。¹ また、1960年代から1970年代初頭にかけては、イタリアのボローニャやドイツのフランクフルトのブックフェアへ日本の出版社が参加しはじめ、欧州などの絵本賞に選ばれる作家が現れるようになる。² 日本の絵本は、世界的に知られるようになり、現在も多くの日本人作家が国際的に活躍する。³ 今日、書店やインターネット通販サイトを通じて、世界各国の邦訳絵本から、国境を越えて高い評価を受けている作家の作品まで、多彩な絵本を目にすることができる。この状況は、日本における絵本の国際化が進んだことを示すものであり、作り手のみならず、絵本と読者を結びつける編集者や小売店業者の、良質な絵本を世に送り出すという努力によるところが大きい。

絵本の国際化は、仏教に関連する物語を題材とした絵本、すなわち仏教絵本にも波及している。数としては少ないが、読む者に世界的広がりを意識させる作品がいくつか存在する。仏教絵本は、仏教界という限定された枠組みの中で、独自に発達してきたメディアではなく、日本の絵本がたどった時代ごとの変遷と連動しながら、国外にも目を向けた数タイプの作品ジャンルを成立させている。その中には、仏教教団が、海外布教戦略の一環として制作したものもあり、近年現れたこのような作品には仏教絵本の新しい展開をうかがわせる。

メディアと仏教という文化的問題において、仏教絵本の国際化というべき現象は非常に興味深い。そこで本論文は、これまで日本で刊行されてきた仏

(214)

教絵本の中から、広く諸外国を意識した作品を考察し、国際化という現象が及ぼした影響について解明する。

2 仏教絵本の国際化

2-1 絵本の国際化に見られる諸現象

絵本の国際化とは、絵本という媒体を通じ、複数の国家間で文化的、経済的に相互影響しあう事象全般を包括した概念である。ただし実際には、さらなる複雑な関係性から形成される現象であるため、いくつかの細かな諸事象を内包した枠組となる。とくに日本で刊行される絵本を対象とする範囲内において、これらを整理するならば、絵本の国際化には、(1)海外で販売されている絵本の翻訳出版、(2)外国における読物・偉人伝・民話などの再話、(3)複数の国家間での絵本販売、(4)国の枠組を超えた作家の活動、(5)さまざまな言語が使われた絵本など、作品、ジャンル、表現、言語、流通経済、作家といった分野での諸事象が見出せる。もちろんこれ以外のさまざまな現象が生じていることを想定する必要はあるが、現代日本の絵本史で際立つものとしては、これらの項目に集約することができよう。⁴

2-2 仏教絵本の場合

日本における仏教絵本の国際化も、その大部分は、絵本全般の国際化という展開の中で起きている現象である。仏教絵本とは、仏教に関連する諸作品を包括する概念として定義されるが⁵、この中には、仏教の宗派団体が制作へ関与した作品もある。仏教絵本は、教団イメージを形成する手段として、あるいは、教団のメッセージを信徒などに伝達する戦略的媒体として利用されている。しかし、仏教団体が絵本を制作する際には、絵本の動向をふまえた上で行うため、仏教絵本が、宗教伝道の教材として独自に発展してきたというわけではない。⁶ ゆえに仏教絵本の国際化は、あくまでも日本の絵本という枠組の中で生じる現象として捉えられる。

現在、確認している範囲内で⁷、国際化を意識した仏教絵本として認めら

れる作品には、次のようなタイプがある。

- (1) 日本で再話されたジャータカ物語絵本。
- (2) 日本語と英語が併記された葉祥明のバイリンガル絵本
- (3) 英語による絵本の読み聞かせ
- (4) 日本語で描かれた作品の英語対訳絵本

上記の分類には、本論文で取り扱う作品へ合わせて変則的に設けた項目もある。たとえば、(1)については、厳密にいうと日本で再話された海外の仏教説話絵本を分類した項目と言い換えることができる。日本の仏教絵本には、ジャータカと呼ばれる仏教説話を題材にした作品があり、(1)では、ジャータカを原話として、外国人が制作に携わったものに焦点をあてて分類している。(2)についても、本来ならば日本語と英語の二言語併記絵本として分類することも可能だが、今回は葉祥明という作家を取り上げるため、その名前を用いた分類項目として設定している。

3 日本で再話されたジャータカ物語絵本

3-1 ジャータカと絵本

仏教絵本の中には、仏教の開祖である釈迦や、宗派を開いた宗祖、著しい功績をあげた僧侶の伝記、日本靈異記や今昔物語集といった古典文学に収録される仏教説話、各地域の民話など、長い間にわたり人々が伝承し、読物などの題材として度々取りあげられる物語を再話した作品が多くある。その一つとなるのが、ジャータカ物語と呼ばれるものである。日本でこれを扱った絵本には、『こどものくに仏教名作絵本』（鈴木出版 2003年刊）に収録されている『きんいろのしか』（文・渡辺愛子 絵・井口文秀）や、今岡深雪と掛川晶子の『ジャータカ物語』（浄土宗出版 2011年刊）といったものがある。

ジャータカとは、広くインドの民話に題材を求めた釈迦の過去世物語である。紀元前4世紀から紀元前3世紀頃に成立したこの物語には、複数のエピソードが存在し、大別すると全3部で構成されている。一般的には、「本生話」や「本生譚」などと訳され、漢訳では「本生経」として仏典の一部とさ

れる。現在もっとも完備したジャータカは、南方仏教が伝える「小部経典」中の22編547種であるが、パーリ語、サンスクリット語、中国語、チベット語、ソグド語などの文献中にも見出される。⁸

3-2 外国人作家が手がけた海外の民話絵本

これまで日本で刊行されたジャータカ絵本は、その多くが日本人作家によるものとなるが、中には、外国人作家の手がけたものもある。その一つとなるのが、1982年にほるぷ出版から発行された『タイの民話 おしゃかさまものがたり』（図1）である。絵本の形状は、縦が30.4センチ、横が21.4センチというサイズで、総ページ数は32ページ、文字は横置きにレイアウトされ、左綴りの造本構造となる。

この絵本は、ジャータカ物語の547話にあたるプラウエートサンドーンの話として、タイ国で語り伝えられてきた仏教説話に題材をとる。チュットドンという国の王子である主人公のプラウエートサンドーンは、中期インドで使用されたパーリ語で、ヴェッサンタラと呼ばれる釈迦の前世である。日本では、1921年（大正9）に、倉田百三が『布施太子の入山』という小説を発表して以来、布施太子の呼称で定着している。⁹ 物語の前半では、プラウエートサンドーンが自分の財産と自らの身体を人に施そうと考え、財宝である白い象を他国に与えたことから国を追放される。後半部分では、放浪のさなかにあっても施しを行い、遂には妻子までも他人に与えてしまうが、その瞬間にインドラ神から施しの偉業が認められて大願成就し、家族と共に国へ戻るという内容である。タイ国では、『マハーチャート』（Mahachat）という仏教経典にこの物語が記されている。この経典は、パーリ語で記された『布施太子本生経』のタイ語版である。釈尊が布施太子としての生を終えることにより、仏陀になる前の全十生を終えたことを祝う「大生」という言葉から、別名を『大生経』ともいう。¹⁰

『おしゃかさまものがたり』の作者は、絵を担当するパニヤ・チャイヤカムと、翻訳者のいわきゆうじろうという二人の人物である。岩城雄次郎（1935年～）は、産能短期大学教授を務めたタイ文学の第一人者として位置

づけられる研究者である。絵を担当した作者のパニヤ・チャイヤカムについては、経歴不明だが、その名前からしてタイ人と判別できる。日本において外国の物語を再話した絵本の作者が、外国人であることは、非常に稀な例である。創作のプロセスは、翻訳を手がけた岩城の主導により進行し、パニヤ・チャイヤカムについては、出版社との関係よりも、岩城の人脈から絵本制作へ携わることになったものと考えられる。タイ人の作家に絵を担当させることにより、『おしゃかさまものがたり』の各画面では、なめらかで曲線的な細身の体型と、尖った鬚を特徴とするスコタイ仏のようなタイ国の仏像様式が描かれる（図2）。外国の仏教芸術にみられる様式を圖像化する絵本により、日本の読者は、仏教表現の多様性に接することとなる。

3-3 外国人僧侶が監修したジャータカ絵本

このほかに、奥付に外国人の名前が記されているものとしては、2011年に株式会社サンガより出版された『くじけない人の話 おしゃかさまの物語より（ジャータカ 第124話）』（図3）という作品があげられる。絵本は、縦30.5センチ、横22.3センチというサイズで、左綴りの全46ページという厚みのある形状をしている。物語は、昔、ひどい干ばつが起こったヒマラヤの麓において、若者と動物たちが互いに助け合いながら水と食べ物とを分け合ってしのぐという内容で、最後にこの話について村長より、若者のくじけない心がみんなの幸せを作ったといった教訓が示される。

この教訓に関連して、絵本の表紙に巻きついた帯宣伝部分には、「大震災をのりこえ未来を生きる子どもたちに贈る仏教の物語 くじけなかった若者の、大きな力がつくれた、みんなの幸せ。」（図4）という一文がある。帯の記述が示すように、この作品は2011年3月11日に発生した東日本大震災と関連がある。話そのものは、仏教説話のジャータカ物語であるが、それを震災以後の被災地復興に対する励ましのメッセージとして語り変えるところに、再話絵本としての特徴がみられる。

絵本『くじけない人の話』には二人の作者がいる。このうちジャータカの再話を行ったのは、山口県下松市にある浄土真宗誓教寺坊守の藤本竜子であ

る。絵については、京都精華大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科イラストレーションコースに在学する笛岡法子が担当している。これに加えてもう一人監修者として名を連ねているのが、宗教法人日本テラワダ仏教協会の指導者を務める、スリランカ上座部仏教の長老アルボムッレ・スマナサーラ（Alubomulle Sumanasara）である。スマナサーラは、初期仏教の伝道と瞑想指導に従事しつつ、メディア出演や全国での講演、執筆活動を続けている。¹¹ この人物が絵本の監修者となった理由は、絵本の出版元である仏教書専門出版社の株式会社サンガが、スマナサーラの著作を数多く出版していることや、再話者の藤本が、以前からスマナサーラと共に執筆活動を行ってきたためである。¹² また、サンガは、東日本大震災の被災地となった宮城県仙台市若林区の出版社であることから、被災地にある出版社として、復興に向けてのメッセージを発信する意味で、『くじけない人の話』の制作に踏み切っている。¹³ 現代人に生き方について説くスマナサーラを監修者に据えたことには、仏教者の立場から被災者を励まし、読者に対して説得力のある仏教絵本にしようとした意図がうかがえる。

4 日本語と英語が併記された葉祥明の絵本

4-1 国際化とバイリンガル絵本

絵本の国際化という点では、国際化社会の到来と共に生み出されたバイリンガル絵本の存在も無視できない。バイリンガル絵本とは、二つの異なる言語を併記した絵本のことである。今日、日本のバイリンガル絵本には、『英語でもよめる はらぺこあおむし』（偕成社 2006年刊）のように、ロングセラー絵本を改訂し、日本語と英語を併記したものや、祖父江文宏が著した『ローマングラスを知っていますか』（東本願寺出版部 1984年刊）のような日本語・英語・スペイン語というトライリンガルの作品が存在する。こうした絵本は、1990年代に入ってから本格的に出版される。そこには、1980年代後半の急激な円高進行と、1988年に施行した米国訪問時のビザ免除制度などにより、需要が拡大した海外旅行の影響がある。1990年代は、日本人に

とって海外を体験できる時代となる。それに伴い、海外留学者の増加、英会話学校の隆盛、早期からの英語児童教育といった語学教育の加熱も、バイリンガル絵本が出現した要因となる。¹⁴

いまや絵本の一ジャンルとして定着しているバイリンガル絵本だが、その用途については二通りある。たとえば、仏教系出版社である鈴木出版は、自社のウェブサイトにおいて、『大きい犬…小さい犬 Big Dog…Little Dog』（2010年刊）という日英両言語併記の作品を、「このシリーズは、アメリカで英語初級者のために作られた **Beginner Books**[®]シリーズから5冊選り、英語と日本語のバイリンガル絵本として刊行しました」¹⁵と紹介している。つまり、この一文が示すのは、語学教育を目的としたバイリンガル絵本の用途である。また、第二の用途として、「ホームステイ・留学の贈り物に」と帯宣伝がうたれた「講談社バイリンガル絵本 日本昔ばなし」シリーズ（図5）のように、日本文化を海外に紹介する手段として出版されたものもある。

この流れの中で1990年代には、日本語と英語併記の仏教絵本が出版されるが、そうした作品には、先ほどあげた二つの用途に加えて、国内向けに、仏教の国際化をアピールし、国外向けに、日本仏教を紹介するという二面的な利用が意図されるものもある。

4-2 葉祥明と仏教絵本

現在まで確認している仏教のバイリンガル絵本には四つの作品がある。その全てを手がけるのは、絵本作家の葉祥明である。葉祥明は、1972年に至光社から出版したデビュー作の『ぼくの べんちに しろいとり』がイギリス、フランス、スウェーデンで翻訳された国際派の絵本作家である。1990年には、創作絵本『風とひょう』がイタリア・ポローニャ国際児童図書展のグラフィック賞受賞に選ばれ、イギリス王室のアン王女に原画を献上したことで話題となった。¹⁶ これまで発表してきた絵本のコンセプトは、「生命」、「愛」、「平和」、「環境」といったテーマであり、戦争や紛争、自然、育児、人間関係、苦しみなど、現実社会の諸問題に関連した作品を制作してい

(220)

る。¹⁷ 葉祥明は、水平線をモチーフとし、パステル画のような明るいグラデーションを多用する絵を描くことから、人の心に癒しを与えることを目的としたヒーリングアート系のメルヘン画家として認知される。¹⁸ また、こうした自身の創作活動に関連づけて、絵本による平和や環境問題、生命やグリーフケアといったテーマの講演会も行っている。¹⁹

4-3 仏教絵本のバイリンガル作品

葉祥明の作品において初の仏教絵本となるのが、1996年に刊行された『LITTLE BUDDHA リトルブッダ』（図6）である。法華系の在家教団である立正佼成会が経営する佼成出版社が発行したこの作品は、新宗教の仏教絵本でありながら、バイリンガル併記という現象において先駆的なものである。形状は、縦28.4センチ、横24.2センチというサイズで、左綴りの全40ページからなる。内容は、ブッダに導かれ、自分の存在と様々な生命、さらには、宇宙との繋がりを知り、自分の仏性すなわち自分自身がリトルブッダであることに気づくという物語となる。

このようなバイリンガル絵本が制作された背景には、宗教教団の活動方針が影響している。立正佼成会は、他宗教との連携や交流に早くから着手し、世界宗教者平和会議やアジア宗教者平和会議の創設と運営に尽力したことで知られる。1979年には、その活動が認められ、教祖の庭野日敬が、宗教間の対話・交流に貢献のあった存命の宗教者・思想家・運動家等に贈られるテンプルトン賞を受賞する。²⁰ 『LITTLE BUDDHA リトルブッダ』の日本語と英語の二言語併記は、こうした立正佼成会の国際的イメージを創出する一つの手法になっており、葉祥明のメルヘン的な作風も、現代人へ宗教的癒しを与える教団の仏教観を具現化する表現となっている（図7）。

『LITTLE BUDDHA リトルブッダ』を制作したことは、葉祥明の創作活動範囲に仏教という分野を加えるターニングポイントとなり²¹、この後に制作された、新しい仏教バイリンガル絵本へとつながる。²² それが、『Call My Name 大丈夫そばにいるよ』（2009年刊）、『For Your Everything ありのまままで』（2011年3月刊）、『Imagine and Voice あなたとともに』

(2011年4月刊)(図8)の三作品である。これらは、法然八百年大遠忌記念事業の一環として浄土宗が監修し、角川学芸出版が発行した絵本である。第一作目の作品に関しては、2009年10月13日に、浄土宗総本山である京都・知恩院内の御影堂に祀られる法然像へ奉納する式典も行われている。浄土宗は、宗祖である法然の半生をまとめた『法然上人』という伝記絵本の英語対訳版として *Honen Shonin* (図9) を制作しており、英語版のウェブサイトを立てるなど、情報発信の英語化に力を入れている宗派の一つである。浄土宗が英語絵本を制作する背景には、北米のロサンゼルスやシカゴ、南米ブラジル、ハワイ諸島などに海外拠点を持ち、日系移民の信徒もいるという海外開教の状況がある。²³

『Call My Name』をはじめとする一連の作品は、縦が22.4センチ、横が15.6センチというサイズで、右綴りの全48ページという形状になっている。内容は、浄土三部経といわれる『阿弥陀経』・『無量寿経』・『観無量寿経』の三経典をモチーフに、葉祥明の絵と詩で再話したものであり、経典絵本として位置づけることができる。本文は、「あなたは 目で見張るような 美しい世界があるのを知っていますか？そこには美しい花が咲き乱れ 見るもの全てが心満たされる 素晴らしい情景が広がっています」(『Call My Name』 p.2 図10) という漢字交じり文になっており、大人を対象読者に設定したつくりとなっている。また、これに関連して、絵本の出版元である角川学芸出版のホームページには、「人びとを救いに導く希望の世界を、葉祥明が絵と言葉で表します。あなたが身も心も癒されますように」²⁴ という『Imagine and Voice』の紹介文がある。この記述は、現代社会に生きる大人の読者へ癒しを与えるという三作品の目的を表している。葉祥明のヒーリングアートの作風は、これらの作品において絵本による宗教的癒しという制作側の意図を形にするための表現手段となっている。

5 英語による絵本の読み聞かせ

バイリンガル仏教絵本の関連で、もう一つ触れておきたいのが、英語によ

る読み聞かせを想定した作品である。日本の絵本全般を見渡すと、近年では、『CDつき えいごでよむ名作えほん（全5巻）』（ポプラ社 2007年刊）や、『CD付き英語絵本 おやすみなさい おつきさま GOODNIGHT MOON』（ラボ教育センター 2012年刊）といった英語の読み聞かせを収録したCD付の絵本が出版されている。

今のところ仏教絵本に、こうしたCDが付属した作品は存在しない。しかし、英語の読み聞かせを実演するという点で、2012年に東京の鈴木出版から刊行された『ポップアップ絵本 おしゃかさま』（図11）には、日本語と共にセットで、英語の読み聞かせ脚本ガイド冊子が付いている（図12）。この作品は、縦43センチ、横31センチの大型サイズであり、左綴りの全12ページという形状で、見開きの状態に開くと折り畳まれた絵のパーツが立ち上がるポップアップのしかけ絵本となっている（図13）。作者は二人おり、絵と文は、新潟県長岡市の普門山千蔵院観音寺住職を務める真言宗豊山派の僧侶で、イタリアのボローニャ国際絵本原画展で入選を果たした諸橋精光による。この他に、ポップアップの構造は、『パコと魔法の絵本～ガマ王子対ザリガニ魔人～』（作・堀米けんじ 主婦と生活社 2008年刊）などを手がけたペーパーエンジニアのさくらいひろしが考案し²⁵、また、監修として、昭和4年に仏教系幼稚園、保育園及び養成機関の全国組織として発足した、公益社団法人日本仏教保育協会の名称が表紙部分に記載される。²⁶

物語の内容は、釈迦の伝記をまとめたもので、見開き1は釈迦の誕生、見開き2は釈迦が出家する四門出遊、見開き3は釈迦が悟りを得る降魔成道、見開き4は釈迦が布教を始める梵天勸請と初転法輪、見開き5は釈迦の入滅という構成となっている。この作品は、一人で読むものではなく、実演する絵本として作られている。そのため、付属する日本語と英語の脚本ガイド冊子には、各画面の文章と、物語の進行に合わせたしかけの操作手順が記載されており（図14）、演者は、これを脚本としながら複数の視聴者に向かって読み聞かせを行う。脚本ガイド冊子は、共に縦が25.7センチ、横が18.5センチのサイズで、日本語の冊子は、左綴りの全16ページ、英語の方は、同じく左綴りの全8ページとなっている。ポップアップ絵本に日本語と英語の脚本

がつけられたのは、絵と文を手がけた作者が絵本だけでなく、紙芝居も手がけている点に起因するものと考えられる。諸橋精光は、これまで『やまぶし石ものがたり』（童心社 1989年刊）や『小僧さんの地獄めぐり』（鈴木出版 2010年刊）などの紙芝居を刊行している。このことから同じ諸橋作品の『ポップアップ絵本 おしゃかさま』には、複数人の前で実演する紙芝居の媒体的性質が顕著にうかがえる。また、この点は、日本語と英語による読み聞かせの実演においても指摘される。近年では、紙芝居にも『ハロー！はじめての英語 KAMISHIBAI（全3巻）』（童心社、2009年刊）などの、日本語と英語で実演するバイリンガル作品が存在する。こうした紙芝居の存在は、世界宗教である仏教を開いた釈迦の伝記を国際的に発信する手段となりうるものであり、『ポップアップ絵本おしゃかさま』においても媒体表現の選択肢として、バイリンガル紙芝居が参考にされたものと考えられる。

6 終わりに

戦後、日本における絵本の国際化に伴い、仏教絵本も多様化し、海外を意識した作品が作られるようになった。しかし更なる国際化を進めるには、いまだ多くの課題が残っている。仏教絵本の多くは、主として日本国内で流通し、日本人の読者を対象として制作されてきたものである。ゆえに、国際性を意識した絵本であっても、そこでの国際性は、日本国内向けに示されるものでしかない。また、仏教絵本という媒体に限定していえば、絵本による海外伝道は、必ずしも著しい成果をあげているわけではなく、むしろ海外の人々は、日本の仏教絵本について全く知らないのが実情である。今後、仏教絵本による国際規模の情報発信を行う場合は、このような現状をふまえ、作品の質はもちろんのこと、絵本の普及方法についても検討する必要がある。

(大正大学総合仏教研究所研究員)

本文注釈

- ¹ 鳥越信『【カラー版】小さな絵本美術館】ミネルヴァ書房 2005年6月25日 pp.86-91, pp.116-119. 永田桂子「昭和戦後～1970年代」(中川素子 吉田新一 石井光恵 佐藤博一『絵本の事典』朝倉書店 2011年) pp.174-176.
- ² 「第一部 出版の塔」<http://www.kodomo.go.jp/anv10th/publishing/index.html> (「国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会 日本初☆子どもの本、海を渡る」) 2013年11月27日閲覧.
- ³ 「第二部 文化の塔」<http://www.kodomo.go.jp/anv10th/culture/index.html> (「国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会 日本初☆子どもの本、海を渡る」 サイト内) 2013年11月27日閲覧.
- ⁴ 中川素子 吉田新一 石井光恵 佐藤博一『絵本の事典』pp.154-186.
- ⁵ 森覚「仏教絵本」(中川素子 吉田新一 石井光恵 佐藤博一『絵本の事典』) pp.318-320.
- ⁶ 森覚「日本における仏教絵本の成立」(『大正大学大学院研究論集』第36号、大正大学 2012年) pp.148-154.
- ⁷ 森覚『仏教絵本の研究 宗祖伝絵本の形成』大正大学博士号学位論文 2011年.
- ⁸ 田中教照「ジャータカ *Jātaka*」(下中直人編『世界大百科事典12』平凡社 1988年) pp.719-720.
- ⁹ 「「布施太子」とは倉田百三著『布施太子の入山』(岩波文庫、昭和二年)から借りたもので、未だ語義が明瞭でない *Vessantara* とは直接には関係がない」 中村元監修・補注 阿部慈園 辛島静志 岡田行弘 岡田真美子訳『ジャータカ全集 10』春秋社 1988年 p.263.
- ¹⁰ 「547 布施太子前生物語」(中村元監修・補注 阿部慈園 辛島静志 岡田行弘 岡田真美子訳『ジャータカ全集 10』) pp.149-257. 山中行雄「倉田百三『布施太子の入山』とヴェッサンタラ・ジャータカ」(佛教大学総合研究所『法然上人800年大遠忌記念 法然仏教とその可能性』法蔵館 2012年) pp.1147(118)-1170(95). 富田竹二郎「マハーチャート *Mahachat*」(下中直人編『世界大百科事典27』平凡社 1988年) p.149.
- ¹¹ 「日本テーラワーダ仏教協会公式サイト」<http://www.j-theravada.net/5-chourou.html> 2013年11月27日閲覧.
- ¹² 「株式会社サンガ」<http://www.samgha.co.jp/> 2013年11月27日閲覧.
- ¹³ 「仙台に本社を置く出版社としてこの震災の記録を残すべきだと考えた」『*Samgha JAPAN サンガジャパン Vol.6*』サンガ 2011年7月1日 巻頭グラビア部分 p.3.
- ¹⁴ 内藤嘉昭「日本滋海外旅行の現状と展望」(『文化情報学 駿河大学文化情報学部紀要 原田三朗教授退職記念号』第12巻第2号 駿河台大学 2005年) pp.64-79.
- ¹⁵ 「鈴木出版」<http://www.suzuki-syuppan.co.jp/script/detail.php?id=1040102875> 2013年11月27日閲覧.

- ¹⁶ 「葉祥明オフィシャルサイト YOH SHOMEI.com」 <http://www.yohshomei.com/> 2013年11月27日閲覧。
- ¹⁷ 「YOH SHOMEI-NETSHOP.com」 <http://yohshomei-netshop.com/?mode=cate&cbid=56873&csid=0> 2013年11月27日閲覧。
- ¹⁸ 「葉祥明オフィシャルサイト YOH SHOMEI.com オススメ Vol.19」 <http://www.yohshomei.com/topi-kako/my-19.html>. 「葉祥明オフィシャルサイト YOH SHOMEI.com オススメ Vol.43」 <http://www.yohshomei.com/topi-kako/my43.html>. 「葉祥明オフィシャルブログ」 <http://blog.yohshomei-netshop.com/?search=%A5%D1%A5%B9%A5%C6%A5%EB%A5%B7%A5%E3%A5%A4%A5%F3%A5%A2%A1%BC%A5%C8&x=0&y=0>. 「女子美術大学ヒーリング表現領域」 <http://www.joshi-bi-healing.net/fields/> 2013年11月27日閲覧。
- ¹⁹ 「葉祥明オフィシャルブログ」 <http://blog.yohshomei-netshop.com/?cid=33438> 2013年11月27日閲覧。
- ²⁰ 井上順孝孝本貢 対馬路人 中牧弘允 西山茂『新宗教教団・人物事典』弘文館 平成8年 pp.313-315. pp.542-543.
- ²¹ 「葉祥明オフィシャルサイト YOH SHOMEI.com オススメ Vol.44」 http://www.yohshomei.com/topi_kako/my44.html 2013年11月27日閲覧。
- ²² 「これまで絵本「リトルブッダ」に代表される“心”を描いてきた葉祥明にとって〈法然上人800年大遠忌〉を前にこのようなご縁をいただけたことは、大きな喜びと言えるでしょう」。「葉祥明オフィシャルブログ 新刊のご紹介：絵本「Call My Name」～大丈夫、そばにいるよ～」 <http://blog.yohshomei-netshop.com/?eid=620356> 2013年11月27日閲覧。
- ²³ 金岡秀元 柳川啓一編『仏教文化事典』佼成出版社 平成元年 pp.362-367. 「浄土宗」 <http://jodo.or.jp/kaikyo/kaigai.html> 2013年11月27日閲覧。
- ²⁴ 「角川学芸出版 葉祥明の本」 <http://www.kadokawagakugei.com/topics/special/callmyname/> 2013年11月27日閲覧。
- ²⁵ 「ペーパーエンジニア さくらいひろしのオフィシャルホームページ [Pop-up Bayby]」 <http://www.pop-up-baby.com/> 2013年11月27日閲覧。
- ²⁶ (社)日本仏教保育協会編『わかりやすい仏教保育総論』チャイルド本社 2004年 p.157.